

Q 虚血性大腸炎は再発しますか

4か月ほど前、突然、下腹部痛や吐き気、冷や汗が起こり、トイレに1時間ほどこもったあと、病院へ行きまし
た。2日後に大腸内視鏡検査を受け、「虚血性大腸炎」と診断されました。
現在はよくなりましたが、再発はあるでしょうか？ この病気の原因や予防法などについて教えてください。

●75歳・女性

A

「虚血性大腸炎」とは、大腸に酸素や栄養を送っている血管の血流が悪くなるために大腸粘膜が弱くなり、炎症や潰瘍を生じる病気です。動脈硬化、高血圧、糖尿病などの病気のために血管が細くなっているところに、大腸の血管の一時的なれん縮^{*}や、便秘、浣腸^{かん}、また、大腸内視鏡検査などで大腸に負担がかかることよって起こると考えられています。血管が豊富でない下行結^{かこう}

腸とS状結腸^{エスじょう}に起こりやすく、比較的高齢の女性に多くみられます。主な症状は、突然の腹痛（特に左下腹部痛^{ひだりかみくぶ}）、下痢、淡いサラツとした血便^{ちけん}などです。

虚血性大腸炎は、発症後の経過から3つの型に分類されます。ほとんどが短期間で治癒する「一過性型^{いっかせい}」ですが、炎症が治ったあとに大腸が狭くなる「狭窄型^{きょうさく}」、腹膜炎で緊急手術が必要な「壊死^{えし}（細胞が死んでいる）型」も少数ながらあり、初期の診断が大切です。診断には大腸内視鏡検査が有用です。多くの場合、大腸粘膜が炎症を起こして出血しており、典型例では縦に長い潰瘍がみられます。炎症が強く大腸のむくみが著しい場合は、がんと区別がつきにくいこともあります。また、ほかの腸炎でないことを確認するためにも、生検^{せいけん}が行われます。さらに、血液検査で炎症反応を調べたり、CT検査で大腸のむくみの様子を調べたりすることも診断の参考になります。

治療は、血便が止まるまでは腸管の安

静のため禁食とし、点滴治療をします。徐々に食事を開始し、発症後約2週間で元の生活に戻れます。壊死型では手術のタイミングを逃さないことが大切です。

ご質問者が経験されたのは、一過性型だと推測します。これまでの報告では、約10%が再発します。予防のためには、おなかを冷やささないようにすること、大腸に負担のかからないよう便秘をしないこと、動脈硬化、高血圧、糖尿病などの病気がある場合はその治療をすることなどが大切です。もし将来、今回と同様の症状が出た場合や、その予感や前兆^{ぜんせう}があった場合は、慌てずに身体^{からだ}を休め、消化器外科の専門医を受診してください。

石川博文

奈良県西和医療センター
副院長



いしかわ・ひろふみ
1986年奈良県立医科大学卒業。専門は一般外科、消化器外科、特に大腸疾患、肛門疾患、鼠径^{もくけい}ヘルニアなど

* けいれん性の収縮。